

NAVER Corporationとの資本業務提携及び 第三者割当による新株式発行に関する補足説明資料

2025.11.5 note株式会社（東証グロース：5243）

n o + e

本資本業務提携の背景と目的

noteエコシステムの拡張戦略を飛躍的に加速させるべく、韓国最大の検索エンジン「NAVER」を中核にコンテンツビジネスをグローバルに展開するNAVER社と資本業務提携を実施。

※赤線：本提携による効果を見込む項目



◀ AIによる、創作にまつわるバリューチェーンの革新 ▶

NAVER Corporationの概要



韓国最大の検索エンジン「NAVER」を中核に、メッセージングプラットフォーム「LINE」や世界最大級のデジタルコミックプラットフォーム「WEBTOON」を運営するグローバルITカンパニー。

会社名	NAVER Corporation
本拠地	95, Jeongjail-ro, Bundang-gu, Seongnam-si, Gyeonggi-do, Korea
事業内容	検索エンジン「NAVER」、モバイル決済サービス「NAVER Pay」、クラウド事業「NAVER Cloud」をはじめ、オンライン広告、Webtoonなどのデジタルコンテンツ事業、AI技術やプラットフォームサービスを展開する韓国最大のインターネット企業であり、世界有数のテック企業のひとつ。 メッセージングプラットフォーム「LINE」(※)を生み出した実績を持ち、コンテンツ領域においては世界150カ国以上で展開され、世界中の数多くの読者に支持される世界最大級のデジタルコミックプラットフォーム「WEBTOON」に加え、日本国内では「LINEマンガ」を展開。
設立	1999年6月
従業員数	15,305名
連結売上高	10兆7,377億ウォン（約1兆1,553億円）※2024年12月期

NAVER Corporationの強み



韓国最大の検索エンジン「NAVER」を中核に、世界最大級のデジタルコミックプラットフォーム「WEBTOON」やUGCプラットフォーム「NAVER BLOG」「NAVER Cafe」等を運営するグローバルITカンパニー。

韓国最大の検索エンジンを 核とするIT・AI関連技術

韓国最大検索エンジン「NAVER」を運営、レコメンデーションやパーソナライズに関する技術を保有。フィンテック事業やEコマース事業、AI関連事業など幅広い事業を展開。

韓国最大の UGCプラットフォーム基盤

ブログサービス「NAVER BLOG」やコミュニティプラットフォーム「NAVER Cafe」を展開。プラットフォーム合計で累計80億件(※1)のコンテンツを有し、韓国最大のUGCエコシステムを保有。

コンテンツ・IPの グローバル展開実績

150カ国以上で約1億7,000万人(※2)の月間アクティブユーザーを擁する世界No.1デジタルコミックプラットフォーム「WEBTOON」を運営。クリエイター支援プログラムも展開。

資本業務提携の内容

note・NAVER社の双方のミッション実現と事業成長をさらに加速させるべく、以下の分野での協業を展開。
AI時代の創作のエコシステムをグローバルに展開します。



① 生成AI技術領域での連携

クリエイティブ領域におけるAI活用を推進し、高品質なコンテンツのデジタル化、発掘、及び流通を促進するため、AI及び新興技術の活用を共同で探求

② 両社プラットフォーム間の連携

両社プラットフォーム間及び関連サービス間において、コンテンツやIPの相互利用、クロス配信、グローバル展開の機会等で連携の可能性を模索し、UGC領域における事業基盤拡大を目指す

③ IP・コンテンツの共同開発・展開

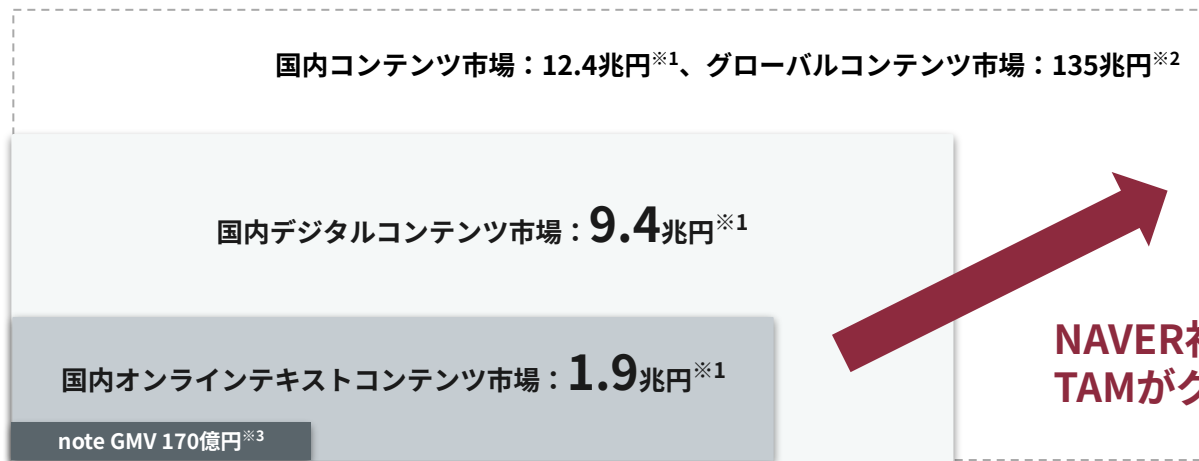
note、TALES等に投稿された作品等をもとに、グローバル市場を視野に入れた漫画、アニメ、実写ドラマ、Webtoon等の知的財産（IP）及びコンテンツの共同開発・展開を推進

④ 戦略的投資の実施

①～③を達成するため、事業領域の拡大と競争優位性の確立に向けたM&Aや資本業務提携等の戦略的投資の機会を共同で模索

資本業務提携による成長イメージ

グローバルなIP・コンテンツ事業の実績を持つNAVER社との連携により、**noteのTAMはグローバルコンテンツ市場へと拡大**。生成AI領域・UGCプラットフォーム関連事業・IP関連事業の協業で、さらなる事業成長の加速を目指す



NAVER社との連携により
TAMがグローバル市場へ拡大

※1 出典：総務省情報通信政策研究所「メディア・ソフトの制作及び流通の実態に関する調査（2024年6月）」市場規模は2022年のもの。

※2 出典：経済産業省「第1回エンタメ・クリエイティブ産業政策研究会 事務局資料（2024年11月）」市場規模は2022年のもの。

※3 2024年度の数値。

第三者割当増資の概要

資本業務提携に関する取り組みを推進するにあたり、NAVER社を割当先として第三者割当増資を実施。

目的	業務提携の内容にかかる取り組みを推進し、さらなる事業成長へとつなげるため。
募集概要	● 割当予定先: NAVER Corporation ● 発行新株式数: 1,429,500株（希薄化率：8.6%） ● 発行価額: 1,399円/株（前日（11月4日）終値1,272円に対し10%のプレミアム発行） ● 資金調達額: 1,973,870,500円 ● 払込期日: 2025年12月1日
調達金額	● 払込金額の総額: 1,999,870,500円 ● 発行諸費用の概算額: 26,000,000円 ● 差引手取概算額: 1,973,870,500円

資金使途の概要

調達資金はIP関連、プラットフォーム開発関連、AI関連、M & A等の戦略投資に活用し、事業成長の加速へとつなげていく方針。

	具体的な使途	金額	内容
1	IP・コンテンツに関する開発やグローバル展開のための成長投資並びにクリエイター育成費用	500百万円	- 両社のプラットフォームで有望なクリエイター・コンテンツを発掘し、共同でメディア展開・グローバル展開するための企画・開発 - 有望なクリエイターや新人クリエイターの育成
2	既存事業含むプラットフォーム開発関連への投資	373百万円	「note」「TALES」等、当社プラットフォーム本体の機能開発及び開発体制の強化 - NAVER社が有するプラットフォームとの将来的な連携の模索
3	生成AIに関する調査研究、開発等費用	100百万円	- クリエイターの権利保護を前提とする先進的な技術開発に関する調査研究、開発等 - 生成AIに関するユーザー体験の向上に資する機能や事業運営の抜本的な効率化を目的とした開発
4	将来的なM&A及び資本業務提携	1,000百万円	IP創出・展開力の強化に資する企業、note事業及びエコシステムの拡大に貢献する企業、及び先進的なAI関連技術を有する企業を対象としたM&A及び戦略的投資

本件ファイナンス後のバランスシートの状況

本第三者割当後のバランスシートの状況は以下のとおり。このほかにも金融機関から12億円の当座貸越枠を設定しており、十分な財務健全性を確保。

2025年8月末時点

資産 6,018百万円	負債 3,220百万円
現預金 2,884	預り金 1,988
	借入金 780
	その他 451
未収入金 1,597	純資産 2,798百万円
投資有価証券 1,084	株主資本 2,513
その他 452	その他 285

資金調達後イメージ

資産 7,992百万円	負債 3,220百万円
現預金 4,858	預り金 1,988
資金調達* +1,973	借入金 780
	その他 451
未収入金 1,597	純資産 4,772百万円
投資有価証券 1,084	株主資本 4,487
その他 452	資金調達* +1,973
	その他 285

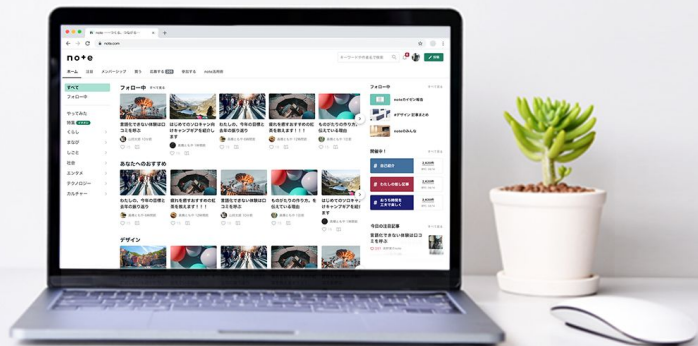
* 資金調達額の本新株式の払込金額の総額1,999百万円から、本新株式に係る発行諸費用の概算額26百万円を差し引いた概算値です。

本件ファイナンスの補足説明

NAVER社と 資本業務提携に 至った背景	2025年5月頃、共通の強みとビジョン及び両社の事業戦略の親和性に着目したNAVER社より、当社に対して具体的なシナジー創出に向けたディスカッションの打診があり、両社の経営陣は継続的に対話の機会を持ってまいりました。 その中で、双方の事業戦略、並びに当社が推進するメディアプラットフォーム事業及びIP・コンテンツクリエイション事業に関するビジョンについて協議を重ねた結果、両社の目指す方向性に多くの共通点があることを確認し、両社が生成AI技術領域で連携し、UGCプラットフォーム関連事業とIP関連事業で協業することで大きなシナジーが期待できるとの確信を深めました。 その後、これらの取り組みをより確実かつ迅速に、そして長期的な視点で推進するためには、一時的な業務上の連携に留まらず、相互のコミットメントを明確にする資本関係を伴うことが不可欠であるとの認識で一致し、双方の企業価値を最大化する最良の選択であるとの結論に達したことから、このたび、本資本業務提携契約を締結するに至りました。
第三者割当増資 を選択した理由	当社の手元資金については、既存事業の成長加速に向けた投資（プロダクト開発や人材採用等）に充当する計画としており、本資本業務提携の内容に関する新たな取組みを推進するためには、追加の資金調達が必要となります。 そのため、このたびの第三者割当増資による資金調達を決定いたしました。 なお、本第三者割当によって既存株主の持株比率及び議決権比率の希薄化が生じるものの、本資本業務提携及び本第三者割当は当社の持続的な成長と企業価値向上を目的とするものであり、既存株主の皆様の利益にも資するものと考えております。
新株式の発行価 額の決定方法	今回の第三者割当増資における発行価額の決定においては、既存株主の皆様の利益保護を前提とし、公正性と取引の確実性を考慮しております。 まず、価格決定のルールとして公正性を担保するため、原則として直前1ヶ月間の出来高加重平均価格（VWAP）を採用いたしました。 その上で、既存株主の皆様の利益保護のため直前営業日の終値の95%を下限として、取引の確実性や安定性を確保するため直前営業日の終値の110%を上限として設定しました。 このルールに基づき、取締役会決議日の直前営業日までの直前1ヶ月間のVWAPが1,490円、下限である終値の95%が1,208円、そして上限である終値の110%が1,399円であったことから、発行価額は1,399円に決定いたしました。 これによりNAVER社から終値に対し10%のプレミアムを載せた価格で資金調達することとなりました。

Appendix

note



あらゆるクリエイターをエンパワーメントするCtoCの
メディアプラットフォーム。2014年4月スタート。

MAU

7,359 万

会員登録者数

1,052 万人

公開コンテンツ数

6,407 万件

年間流通総額（税込）

170 億円

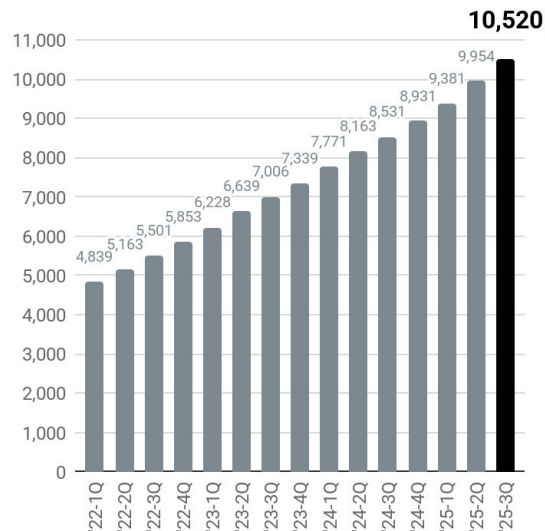
* MAU：Monthly Active Users（月間アクティブユーザー）の略であり、非会員も含め「note」に月1回以上アクセスしたアクティブブラウザの合計数。2025年2月の数値。

* 会員登録者数、公開コンテンツ数は2025年8月末の数値、年間流通総額は2024年11月末の数値。

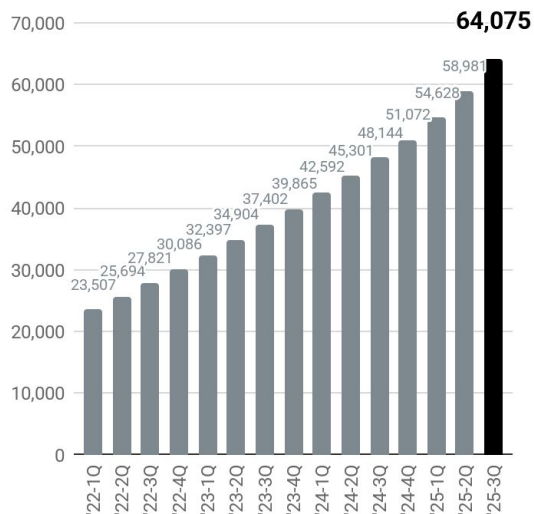
クリエイティブの街 noteの成長

ユーザー数・クリエイター数・コンテンツ数の増加ペースも拡大しており、noteの街が着実に成長。

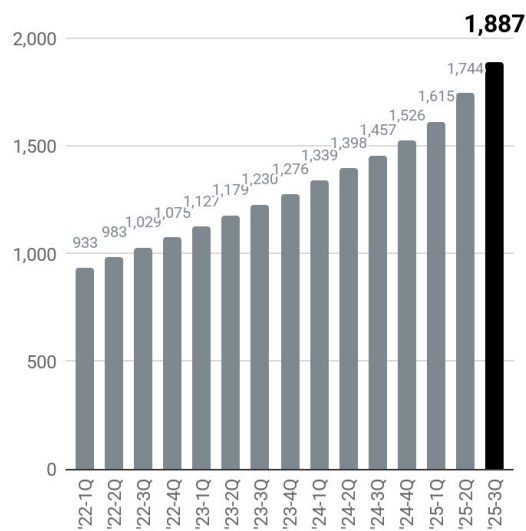
会員登録者数（千人）



公開コンテンツ数※¹（千件）



累計ユニーククリエイター数※²（千人）

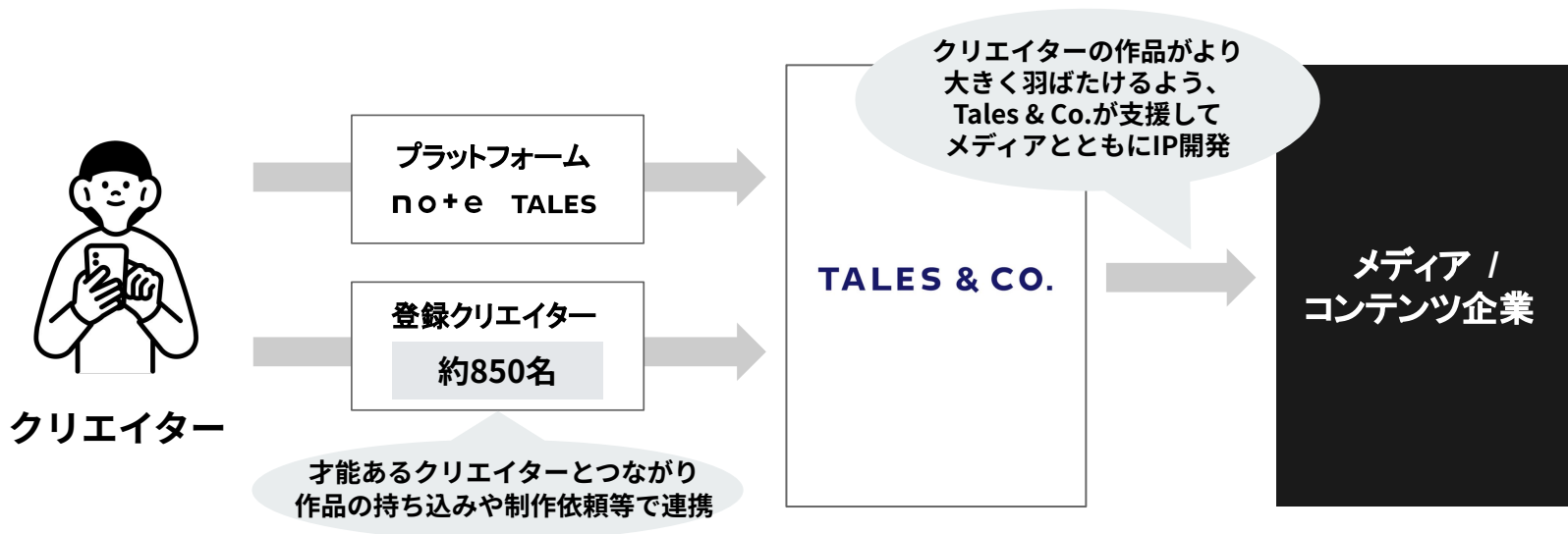


※¹ 公開コンテンツ数は各月末時点でnote上に公開されている累計コンテンツ数

※² 累計ユニーククリエイター数は過去にコンテンツ（削除されたものも含む）を投稿したユーザーの総数

Tales & Co.の目指すもの

Tales & Co.は、noteグループとしての提供価値をCreationまでひろげ、メディアやコンテンツ企業と共創したメディアミックスの実現、IPの創出を目指す。



メディアと共創したメディアミックスの実現、IPの創出

Tales & Co.の強み

代表の萩原や加藤をはじめ、多数のヒット作品を手がけた実績ある編集者が在籍。作品のポテンシャルを見出して最適なメディアミックスを実現し、IP開発ができる体制が強み。

▶ 代表取締役社長：萩原 猛

株式会社ぎょうせい、幻冬舎コミックスを経て富士見書房（現KADOKAWA）に入社。ファンタジア文庫副編集長、富士見 L文庫創刊編集長、カドカワBOOKS創刊編集長、カクヨム創刊編集長などを歴任。2017年に独立し、パルス株式会社に取締役CCOとして創業時から参画。2022年からnote株式会社に加わり、現在は Tales & Co.代表取締役を務める。



主な立ち上げ企画作

『冴えない彼女の育てかた』
『かくりよの宿飯』
『リコリス・リコイル』
『ラブライブ！ 蓮ノ空女学院
スクールアイドルクラブ』



▶ 取締役：加藤 貞顕（note CEO）

アスキー、ダイヤモンド社に編集者として勤務。日本を代表する編集者として『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』（岩崎夏海）、『ゼロ』（堀江貴文）などベストセラー作品を多数手がける。2012年にコンテンツ配信サイト「cakes」、2014年にメディアプラットフォーム「note」をリリース。



編集にたずさわった作品例

『もし高校野球の女子マネージャー
がドラッカーの「マネジメント」
を読んだら』（岩崎夏海）
『ゼロ』（堀江貴文）
『マチネの終わりに』（平野啓一郎）



Tales & Co.が手がける主な作品：自社IP作品

8月に「さらなみ」がKADOKAWAから漫画・小説が刊行。ほかにも複数の作品が商業化に向けて進行中。



「今さらですが、幼なじみ を好き になってしまいました」

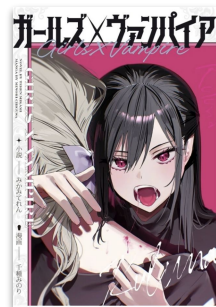
(原作:丸戸史明、漫画:よむ)

8月にKADOKAWAから漫画・小説が刊行
9月に同人誌の中国語翻訳版が刊行
商業版のフランス語翻訳版の発売も決定



エンタメ小説 MOOK 「Distillery」Blue,Red,Music

新刊Musicは初版分が完売したため増刷
複数の収録作品が小説・コミカライズなどの
商業化に向けて進行中



「ガールズ×ヴァンパイア」

(原作:みかみてれん、
漫画:千種みのり)

同人誌販売開始
同人誌のドイツ語翻訳版の発売が決定
商業化に向けて進行中

Tales & Co.が手がける主な作品：BtoB編集事業で手がける作品

メディアや配信プラットフォームからの制作受注案件も実績が増加。



アプリゲームシナリオ
「ヒプノスマイク -Dream Rap Battle-」

アプリ開発元であるオッドナンバーより
ゲームシナリオ制作を受注



Stream配信ゲームシナリオ
「ハムコイ -ハムスターに転生した僕と
三姉妹の甘々な日々-」

ゲーム開発元である講談社より
ゲームシナリオ制作を受注

その他の制作実績

- 映像原作（アニメ・実写）
 - 漫画原作
 - ゲームシナリオ
 - 小説編集
- など複数件を受注

物語投稿サイト TALES

投稿作品を出版社・映像会社・動画配信プラットフォームなどの多様なメディアとマッチングし、世界に通用する魅力的なIPを生み出すことを目指し、物語投稿サイト TALESを2025年4月オープン。note社と共同運営。

物語投稿サイト TALES（テイルズ）の特徴

①多様なメディア展開を実現する運営体制

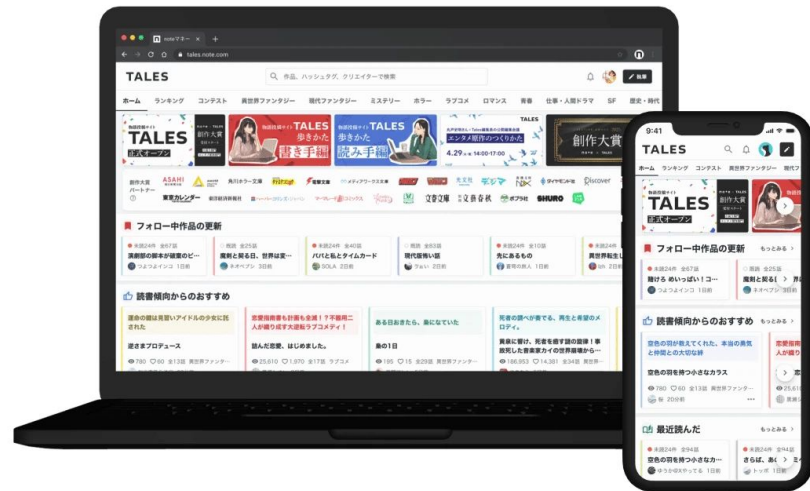
特定のレーベルに縛られず、様々な出版社・映像会社・動画配信プラットフォームと連携可能

②ジャンル別ランキングの表示

各ジャンルの人気作品がひと目でわかるため、ふだん読まないジャンルにも挑戦しやすくなる

③広告収益を還元するパートナープログラムの提供

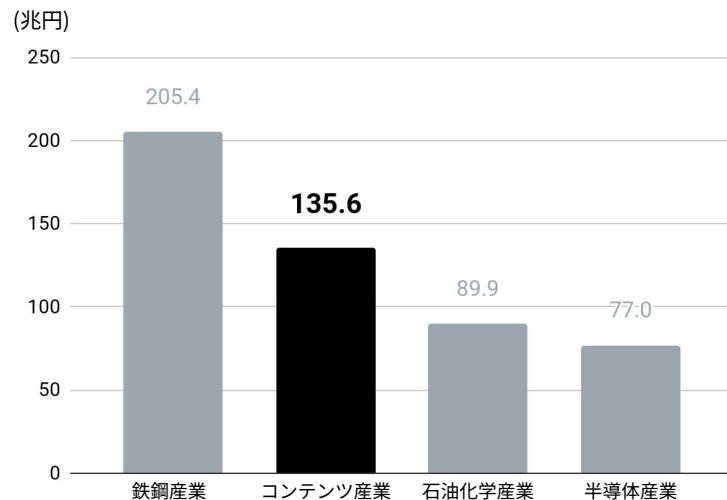
投稿される作品の世界観や読者の興味に近い広告を表示、この広告収益をクリエイターに還元



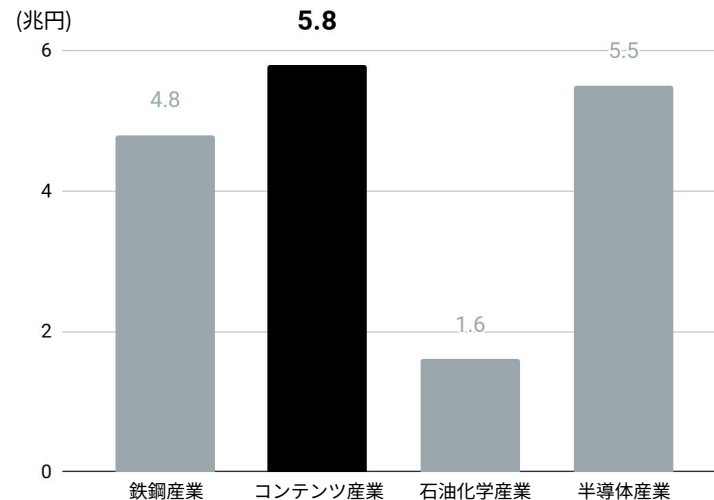
エンタメ・コンテンツ市場の魅力

コンテンツは日本の産業の中でも海外に通用する主要な分野の一つであり、魅力的な市場。
Tales & Co.も世界で通用する魅力的なコンテンツ・IPを創出していくことを目指す。

コンテンツ産業の世界市場規模*



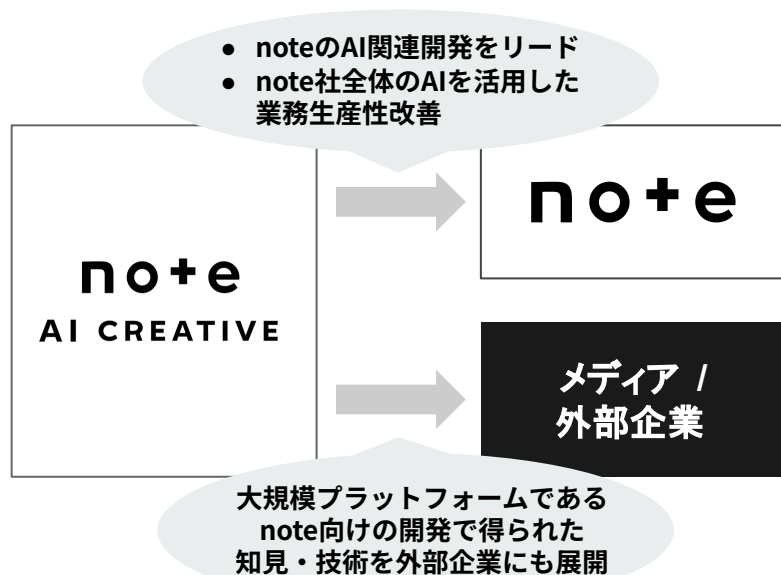
日本のコンテンツ産業の輸出額規模*



* 出典：経済産業省「エンタメ・クリエイティブ産業戦略～コンテンツ産業の海外売上高 20 兆円に向けた 5 カ年アクションプラン～（2025年6月）」
「コンテンツ産業の世界市場規模」の数値は2022年のデータ、「日本のコンテンツ産業の輸出額規模」の数値は2023年のデータ。

noteのAI開発をリードするnote AI creative

note AI creativeは、noteやnote proの様々なAI関連の開発をリード。そこで得られた知見・技術をもとに、外部企業にもAI関連のソリューションを展開し、「AIによる、創作にまつわるバリューチェーンの革新」を目指す。



開発事例：AIレビュー(β)

note PRO

投稿前の安心サポート！

「AIレビュー(β)」で

意図せぬトラブルを未然に防止



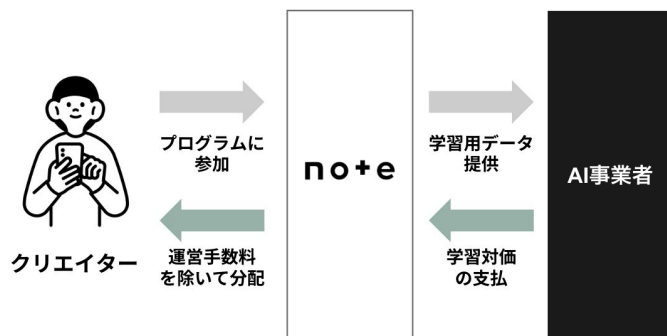
note pro向けに投稿前にAIが記事を確認し、配慮が必要な表現のある文章があった場合にアラートを表示する機能を展開

AI事業者へのデータ提供による新たな収益機会の創出

note上のコンテンツをAI事業者に提供してその対価をクリエイターに還元する取り組み実施に向け、2025年8月に利用規約の改定を実施。クリエイター及び当社の新たな収益機会を創出し、AI時代における新たなエコシステムを構築するべく、国内外の複数のAI事業者とコンテンツを提供して対価を得るための協議を推進中。

データ提供・対価還元の流れ

- note上のコンテンツ（データ提供を希望しないクリエイターの作品は除く）を学習用データとしてAI事業者を提供
- 一定基準に基づいて対価を決定し、クリエイターに還元



本取り組み導入のメリット

<クリエイター>

- 読者への記事やメンバーシップの販売以外に新たな収益機会を獲得できる
- AI学習にコンテンツを使用されたくない場合は、拒否することができる

<AI事業者>

- AIの品質向上のため、noteのコンテンツ（有料コンテンツやメンバーシップを含む）をまとめて活用することができる

<当社>

- クリエイターに新たな収益機会を提供することができる
- AI事業者へのデータ提供を通じ、新たな収益が獲得できる

ディスクレーマー

本資料の取り扱いについて

本資料は、NAVER Corporationとの資本業務提携及び第三者割当による新株式発行について、投資家の皆様にご理解いただくための情報提供を唯一の目的とした説明資料であり、日本国内外を問わず当社の発行する株式その他の有価証券の投資勧誘等を目的として作成されたものではありません。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

n o + e